

はじめに

私の中学・高校の母校は地下鉄駅から坂を上った先にあった。その坂道がある時は遅刻しそうになり息をきらし上り、またある時は試験の落胆でとぼとぼと下り、そんな往復で6年間を過ごした。先日久しぶりに母校を訪れた際、「木下坂」と呼ばれたその坂を歩き、ドイツ大使館に至る急坂で有名な「南部坂」も含め、それらに挟まれた三角形の公園内を散策した。庭園の中には地水、橋、広場、図書館などが配され、「東西南北」という頭の中のコンパスに適合しない不思議な方向感覚をあらためて味わうことができた。



そんな形はハワイ島にも

同じような感覚は、観光地として有名なアメリカ合衆国ハワイ島でも感じられる。ビッグアイランドといわれるこの島は時々噴火するキラウエア火山によって「危険な島」と思われがちだが、その部分は島の東側の一部ボルケーノエリアに限られ、私たちの泊まった西陽の美しいリゾートエリアは、噴煙も見えずいたってのんびりした地域であった。夜にはマウナケア山の中腹まで車を走らせ星空を堪能したが、はるかに頂上には天文台も見える広大な景色にここが火山島であることを忘れてしまうほどである。



## まだまだあるシチリア島も

さらに言えば、イタリア南部のシチリア島。地中海の交差点と呼ばれるこの島は、ギリシアローマの昔から多くの民族が支配する歴史を有している。島の南部には古代遺跡、東側にはシラクーサ、タオルミーナ、カタニアなどの歴史ある観光地、そして北側には州都パレルモなどの近代都市があり、中央には今なお噴煙をあげるエトナ山があるという配置である。それぞれの沿岸には各時代の独特の文化遺産があり、同じ島とは思えないほどの多様性を有している。ここでも東部、南部という区分けが難しく、現地の方々はなんと称しているのだろうか。



## 三角形の地区計画

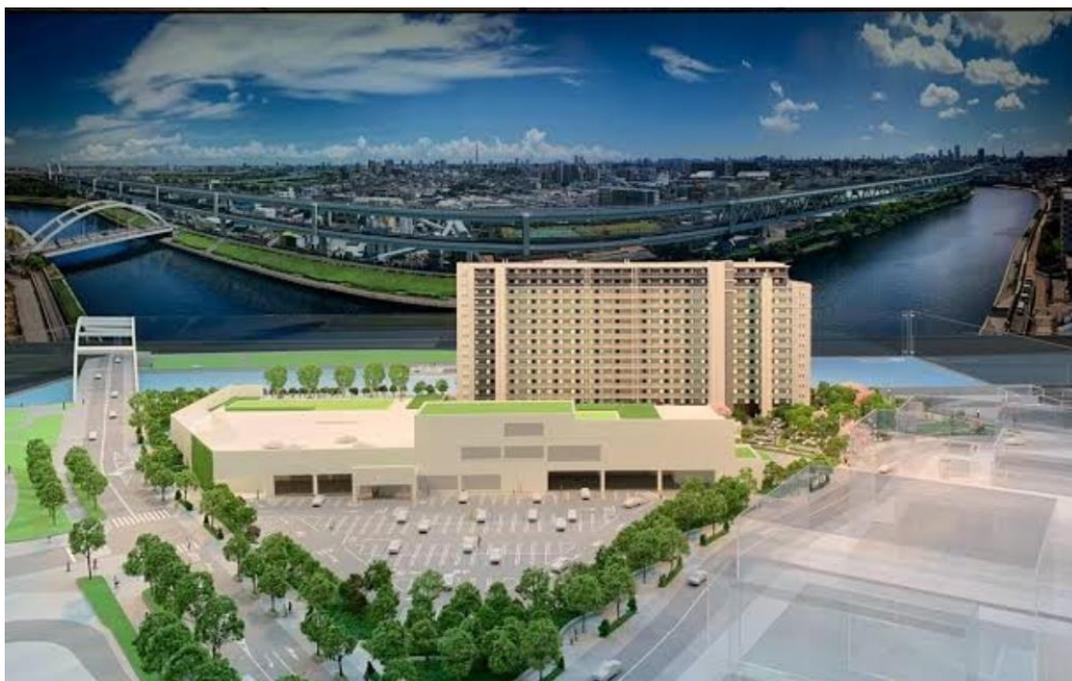
さて、私たちが通常出会う業務でも都市計画・地域計画の中では、エリアごとにゾーニング分けにより性格付けを行っている例が多い。例えば「東側の道路沿いにショッピング、南側には住宅、西側に公園、そして北側には遊歩道、さらに中心に広場を設けモニュメントを設置」という類である。しかしそんな方向感覚が問われたのがまさに三角形の「豊島四丁目地区計画」（東京都北区）である。この地区は工場跡地の再開発で、墨田川、都道、区道により囲まれた三角地に複数の建物が計画され、それらを計画図と竣工写真により方角を合わせて並べてみると下図のようになる。



地区全体を方位で説明すると次のようになる。南側に東から西側にかけて「墨田川」が流れその沿岸を東京都河川局によるスーパー堤防による整備を行った。北東側の「都道」では交通処理の改善、そして北西側には「区道」の拡幅、そして西側には「近隣公園」を新設という構成である。

このように本地区においては方位による呼称は煩雑でわかりにくいので、関係者の会議では「東西南北」を使わずに、各々「隅田川沿い」「都道側」「区道側」の名称を使用してきた。

竣工後各方面から写した竣工写真をあらためて見てみると意外なところに意外な角度の建物の姿が写りこみ「三角形」地形の面白さを実感することができる。下の写真はマンションモデルルームに設置された全体模型の写真である。都道と区道の交差点から見た敷地の三角形地形がわかりやすい一枚である。



### 三角相似形の地勢

このプロジェクトはUR（都市再生機構）を中心に、当メンバーの会社や私どもの事務所も参加し完成させた最新のプロジェクトである。この仕事に携わって以来「三角形の地区」を見るとどうしても他の「三角形」を重ね合わせてしまうのはほとんど職業病といっても過言ではない。

気軽に海外行くことのできない現在、母校に向かう坂道を上りながら、右手の公園の中にハワイのキラウエア火山やシチリアのエトナ山を妄想するのもささやかな一興である。

あなたにとっての「三角地」とは何処だろうか。